

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3170200152
法人名	社会福祉法人 こうほうえん
事業所名	グループホームかわさき
訪問調査日	平成 20年 3月 2日
評価確定日	平成 20年 3月 20日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3170200152		
法人名	社会福祉法人 こうほうえん		
事業所名	グループホームかわさき		
所在地	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳5332 (電話) 0859-48-0306		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9 市ヶ谷MSビル4F		
訪問調査日	平成20年3月2日	評価確定日	3月20日

## 【情報提供票より】(20年 2月 18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2		名
要介護3	2	名	要介護4	4	名
要介護5	3	名	要支援2		名
年齢	平均 84.7 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	九里クリニック、中村医院、YAデンタルクリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立10周年を経て、地域からも受け入れられており、地域に開かれたグループホームとして、理念の実践の成果が出てきている。また、職員の勤務環境が改善されており、職員の活力が利用者ケアへ反映されている。特に、生活の中で利用者に寄り添い、利用者が笑顔になってもらえるようなケアをしたいという姿勢が職員一人ひとりからうかがえる。利用者の重度化は進んでおり、コミュニケーションが困難になってきている現状ではあるが、明るく温かい雰囲気が醸成されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	法人としての家族会は存在するが、当事業所としての家族会はないため、家族の集いとして家族同士が気軽に意見や相談ができる機会をもった。また、玄関先のしつらいについては、段差に関して職員がさらに危機意識を高めると共に、利用者により安全性に配慮した支援に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	利用者へのサービス向上には、職員の心身の健康が不可欠であることから、職員の職場環境を整備するため、職員の休暇を取りやすくするなど、勤務状況の改善に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	主な討議内容として、昨年度の外部評価での指摘部分である玄関先の状況について検討されたが、家庭的であることを重要視することや家族からの強い要望も見られないため、職員の支援上での配慮をさらに求めていくこととなった。また、当事業所の防災訓練への地域の協力体制を強化するため、自治会長と民生委員が年2回のうち1回の訓練を夜間設定として、その状況をみてもらうなど、具体的な取り組みが実践された。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や食事会といった行事、たよりを毎月発行し、写真や手紙とともに送付するなど、家族とのコミュニケーションを深める努力を積極的に行っている。また、玄関に意見箱を設置しており、面会時に意見や意向を聞くなど、家族の意見を取り入れるよう努力している。また、運営推進会議の中で、夜勤者の人数体制への要望が出たが、現状としては増員が困難であるが、緊急時の応援体制による対応を行うこととするなど、説明責任を果たすべく取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアを受け入れ地域からグループホームに来てもらう働きかけと、自治会活動、近くの学校や公民館での交流など地域社会へ積極的に出かける活動の双方に、意欲的に取り組んでいる。グループホームは地域の一員であるということへの意識が高く、積極的に地域との連携を密にし、さらに広げようとの努力が行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として、利用者一人ひとりを尊重すること、その人らしさを追求していくこと、笑顔が引き出せることをなどを重点に置いた、法人内グループホームの理念を掲げ、支援姿勢を明確にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と介護10原則は、ホールと事務所に掲示している。また、職員は日常の支援の中で、理念に忠実であるかを念頭におきながら取り組んでいる。しかし、職員の勤続年数により、理念の浸透にやや差異が感じられた。	○	勤務開始前の理念の唱和は、利用者の重度化に伴い困難な状況となっているが、理念の浸透への取り組みにさらなる工夫が欲しいところである。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動(一斉清掃など)に参加している他、地域の行事にできる限り積極的に参加するようにしている。また、地域子ども会と定期的に交流を図っている。その他、日常的な買い物などの機会に交流を持っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を毎年実施することで、改善課題に取り組んでいる他、さらに内部監査も行うことで、職員が常に職務の改善に意識を持つような機会を提供しており、課題については、即時対応できるよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へ積極的に参加してもらえるように働きかけているが、今年度は3回の開催であった。しかし、会議内容は、利用者へのサービス提供の改善に向け具体的なものとなっており、挙げた課題は、次回までに着手・実践しており、意義のある取り組みとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理念にある地域に開かれた法人として、市町村とは緊密に情報交換を行い、共に協働していけるよう取り組んでいる。今年度は、その成果の一つに防災協定を締結し、協力体制を確立した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書とともに利用者の状況を便りで報告している他、電話等で細やかな連絡をしている。また、利用料はホームに直接支払いに来てもらうよう依頼しているため、月1回の来訪の際に利用者の詳細な状況は丁寧に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望などは、基本的には直接話してもらえそうな雰囲気をつくっている他、法人として苦情専用ダイヤルを設置するなど、意見を吸い上げる体制が整備されている。挙げた課題は、職員間で検討し、サービス改善へ反映していくプロセスがある。	○	事業所として家族同士が共に集い、意見を言い合える場づくりに着手している。現時点での参加は少数であるが、意義や必要性を実感できているため、今後の取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に頻繁な異動がないよう体制整備に努めているが、異動がある場合には、その前に新しい職員と現場での引継ぎを行い、利用者及び家族へ担当が替わることを徐々に認識してもらう等、不安の軽減に配慮しながら行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育訓練計画で研修が取り組まれており、法人内のグループホームの職員の研修会が年間4回実施される。また、できる限り外部の研修への参加も奨励しているが、当事業所では、利用者の重度化によりなかなか研修を受ける機会が少ないのが現状である。	○	利用者の重度化による職員の勤務負担もあり、研修への参加がしにくい状況がある。今年度、新人職員の採用もあり、人材の育成は重要課題ともいえるため、参加しやすい体制、環境づくりに努められたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外のグループホーム職員が相互に訪問、情報交換など交流を行いサービスの質の向上に努めている。また、県内の他法人との職員交流研修に参加している。広い視野を持つことにより気づきが得られ、サービス向上に反映できる取り組みとして有効と思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の安心と納得が重要であることを意識しており、入所前には、必ず本人にも見学してもらっている。また、本人が安心できる持ち物の持参や居室環境の整備により、不安を軽減し新しい生活に馴染んでいけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は重度化しており、日常生活動作も厳しい状況となっているが、利用者の意向を吸い上げる努力をし、利用者ができること、あるいは、やりたいことをやらせ、共に支えあって生活しているという友好的な関係の構築に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	見学や相談受付の段階から、意向を汲み取り記録に残すことで職員に周知している。また、入居が決まった利用者については、アセスメント時に、心身の状態把握とともに、入居前の1日の過ごし方や趣味、生きがいなどを記録したうえで、会議にて本人本位の支援について話し合いを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント時に詳細に情報収集を行っているが、入居者本人や家族の意向に沿うプランにするため、介護計画作成時には必ず同席の上、介護計画と一緒に作成している。作成した介護計画については、同意後、署名捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期は介護認定有効期間を基本としているが、変更の必要があればその都度見直しを行っている。その際、毎月のモニタリング記録や日々の経過記録をもとに、必ず家族や入居者本人の同席のもと、一緒に見直しをしている。さらに、見直した介護計画については、全職員が確認をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ事業を活用して、近隣の高齢者のニーズに対応できる体制を整備している。また、この事業を、希望者に対する入居前の体験利用に活用するなど、スムーズな入居につながるような取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながら、入居者が希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。入居者が重度化していることもあり、往診による受診が多いが、必要時にはホームが通院の支援を行っている。また、受診結果については、連絡ノートを活用して全職員に周知徹底を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	あらかじめ、家族に対して、グループホームの機能をハード面も含めて、対応には限界があることを説明している。しかし、変化があったときには、利用者や家族の要望があれば、ホームとしてできる限り応えるように、家族やかかりつけ医師と話し合いを持つなど職員も含めて情報を共有するよう心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規程を作成しており、個人情報の取り扱いには配慮しており、ケース記録も鍵のかかる戸棚に保管している。利用者に対しては自然体で関わっており、入居者本人を尊重した支援を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の多くは重度化しており、希望が明確に表現できにくい状況にある。そのため、利用者が今何をして欲しいかという深層部分を理解し支援しようと、一瞬の言葉や仕草を見逃さないよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化した入居者が多いが、可能な限り定期的な食材の買い出し、毎回の食事の準備や片付けなどを一緒に行っている。また、食事介助も、配慮してさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の重度化をふまえて、週2回から3回の入浴を、入居者本人の状況や意向に合わせてながら対応している。入浴しながらない入居者に対しては、家族と話し合ったり、タイミングを図って声かけをするなど、入居者本人を尊重するよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、アセスメント記録などで一人ひとりの生活歴や得意なことを把握している。そして、日々の関わりの中で、入居者本人のしたいことや希望を聞き出し、実現できるように支援している。また、楽しいひとときとなるようボランティア等も活用している。楽しみの1つである買い物も、利用者が欲しい物を直接目で見て、手にとつ		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や地域で開催される夏祭りへの参加など、ホームとして季節に応じた外出行事を行うなどの支援を行っている。また、日常は、散歩をしたり、一緒に買い物に出かけるなど、ホームの方針として、外出に重点を置いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の時間帯は、玄関などに施錠はしていない。落ち着かず外へ出ようとする入居者を察知した時も、無理に止めることは行わず、さりげなく声かけをしたり、一緒に寄り添って外出するなどの対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルが整備されており、年2回避難訓練も行われている。そのうち1回の夜間想定訓練では、民生委員や町内会長に参加してもらい、災害時の地域の協力体制を確認している。	○	備蓄品は、現在、約2日間の水分保持に留まっているため、備蓄品についての検討を行っている。非常用食料や備品を早急に準備し、定期的に点検することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な水分摂取に重点をおき、入居者一人ひとりの水分量を確認し記録している。栄養バランスについては、個々の状態に合わせて、必要量を摂取できるよう支援している。食事量が不足がちの入居者や特別食が必要な入居者に対しては、かかりつけ医師と連携して必要量が確保できるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、さりげなく絵画や写真が飾ってある。リビングにはソファが設置してあるが、落ち着いた色彩のカバーが掛けてあり、くつろぐことに配慮した共有スペースとなっている。また、ホーム内の別の箇所には、椅子を2脚ずつ設置しているスペースがあり、入居者同士や面会者と歓談できるように配慮してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間部屋があったり畳部屋があったり、入居者の好みや個々の生活スタイルに合わせた居室づくりの取り組みがみられた。居室にはベットやダンス、家電製品など、自分の物やなじみある物が持ち込まれており、くつろげるような居室づくりが行われていた。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにしよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームかわさき
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鳥取県米子市両三柳5332
記入者名 (管理者)	佐藤 裕之
記入日	平成 20 年 2 月 26 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の意義と方針を明らかにしている。 独自の理念を掲示し職員へ周知されている。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が運営理念を述べる事ができる。 上記運営理念と介護10原則は、ホールと事務所に掲示している。また、利用者と家族には入居時に理念と共に方針・約束など重要事項を説明している。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念・方針・権利・義務を事業所内に掲示している。 入居時には、ご家族に説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物等に出掛ける事により交流を深めている。近隣の人達と挨拶をかわしている。	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事にできる限り積極的に参加するようにしている。 地域の子ども会と定期的に交流を図っている。 自治会活動(一斉清掃など)に参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で認知症高齢者の情報共有を行なっている。災害時、被災者の受け入れ、応援など事業所としての役割を自治会に情報提供している。	○	地域との防災協定の締結。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へ積極的に参加してもらえるように働きかけている。運営推進会議では、事業所からの報告と共に質問、意見、要望を受け、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当と随時連絡を取り合い、情報交換を行っている。運営の実態を共有し、運営やサービスの課題解決に向けて協議し共に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人研修及び外部研修に参加できる体制がある。必要時に、利用者、家族に情報提供を行なっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされる事のない様、職員間で注意を払い、防止に努めている。 虐待に関する研修の機会はあるが、全職員は受けていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を文書と口頭で、十分説明して納得して頂いている。 事業所の出来る事、出来ない事を明確に説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	HPや苦情専用フリーダイヤルを掲示し、働きかけている。 利用者から苦情を言って頂ける様に、日頃から関係作りに配慮している。 苦情について、検討、対応し、改善の結果や経過を伝えるプロセスがある。(是正予防、広報誌)		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に状況を報告している。 必要に応じ電話等で細やかな報告をしている。 毎月、利用者の状況を便りて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	HPや苦情専用フリーダイヤルを掲示し、働きかけている。 利用者から苦情を言って頂ける様に、日頃から関係作りに配慮している。 苦情について、検討、対応し、改善の結果や経過を伝えるプロセスがある。(是正予防、広報誌)	○	家族の集いの開催。(家族会)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員の意見を聞く機会を持ったり、意見を言いやすくなる雰囲気を作っている。 職員の意見を反映させる様配慮を行なっている。 改善、提案制度の活用。 人事考課時の個別面談の実施。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に合わせ、勤務時間の工夫を行なっている。 必要な時間帯に必要な職員数を確保する努力を行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年間に頻繁な異動がない様、最小限に抑えている。 異動の際は、利用者、家族にお知らせし、担当がスムーズに新しい職員と引継ぎ、ダメージを防ぐ努力を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間教育訓練計画の中に継続的な研修が取り込まれている。受講できない職員には資料配布、研修報告書を閲覧できるようにしている。</p> <p>法人内のグループホームの職員の研修会が年間4回実施される。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内外の同業者と相互訪問、情報交換など交流を行いサービスの質の向上に努めている。</p> <p>県内の他法人との職員交流研修に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>リフレッシュ休暇の取得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>職員一人一人の悩みを聞ける体制が取れている。</p> <p>年2回の人事考課の面接時に十分時間を携って話しを聞く場を設けている。</p>	○ 年間を通じて、職員一人あたり2回連続休暇取得に努める。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で活かせる労働環境作りに努めている。</p> <p>職員が参加したい研修があれば、参加出来るよう配慮をしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で、生活状況の把握や本人の思いに向き合い、信頼関係を築くように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が求めているものを理解し即時的なニーズが何なのか、事業所としてはどのように対応ができるか事前にまた、継続的に話し合いをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案をしている。 ケアマネージャー、地域包括支援センター等と連携し、他のサービス機関との橋渡しをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の安心と納得を大切に安定的な利用に移行していけるようにしている。 極力、事前にホームを見学して頂くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを汲み取りながら、お互いが協働し穏やかな生活を送れるように共に支えあえる関係作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状態報告等を面会時又は定期的に情報発信している。ご家族の協力を促すように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者との外出が自由になれるような体制が出来ている。日頃の行事に家族が、参加出来るような働きかけができています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりのヒストリーを把握し馴染みの関係が継続出来るよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士が、お互いうまく力を発揮してもらおう場面を作る配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、必要な家族には随時情報を発信し、家族に来所してもらえるような働きかけをしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>入居者一人ひとりの思いや意向をケアプランの作成に反映させている。 入居者、家族の介護に対する意向をケアプランに記載している。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>個々の生活歴や生活環境の把握に努めている。 入居時前にこれまでのサービス利用の経過等を相談受付表に記載し把握している。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>介護日誌や個人記録に入居者一人ひとりの一日の過ごし方や現状を記録し把握している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>作成前に本人、家族と情報交換を行い介護計画を作成している。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>介護計画の評価、職員が記録する利用者の状態変化や状況、利用者、家族の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際は、終了する前であっても検討見直しを行なっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、ケアの個別状況やケアをしながらの職員の気づきや工夫を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしている。個人記録を基に介護計画表の見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、デイサービス等の申請を行い、近隣の高齢者状況に応じて利用できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、必要に応じて地域資源を活用し利用者が生活しやすい様に支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族に日常の生活の情報を伝え、必要に応じて他のサービスへ移行していく体制がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域周辺の情報や支援に関する情報の交換協力体制を築けるよう地域包括支援センターと相談し対応していく体制がある。運営推進会議は、必ず参加する様要請し、情報共有を行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医で医療を受けられるよう家族と協力して通院介助を行なったり、往診に来てもらっている。お互いに、診察の際の情報交換を行い、情報共有に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声のトーンや話の内容を、他者に配慮しながら利用者に声をかけている。(特に排泄・入浴等) 個人の情報が漏れないように取り扱いに配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力に合わせて理解して頂ける様な言葉かけを行っている。 本人の能力を発揮出来るような作業(内容の検討)の支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを個々に合わせ本人の希望に配慮しながらサービス提供している。 日々の関わりの中から、本人の思いを聞き出す努力をし、実現に向けて取り組んでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理、美容院がある場合、利用できる体制を整えている。希望により、移動理、美容車が利用できる体制を整えている。身だしなみ・衣類は本人に選んで頂く事でその方らしさを大切にしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや、盛り付け、茶碗拭き等、利用者の状態に合わせて実施している。 職員が食事を共に摂る中で得た情報を、メニューを作成する際それぞれの好みを取り入れている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人、家族と相談し、嗜好品が楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りオムツを使用しないよう、個々の排泄パターンや習慣を職員は把握し支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望、タイミングを配慮し入浴を支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の就寝時間を配慮し支援している。 夜間良く睡眠できるよう、日中は積極的に活動して頂けるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の思いを把握し、生活の中の役割や楽しみ事が出来るよう支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談し、能力が発揮できる様支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調に配慮しながら、個々の希望に添うよう外出支援を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人や家族の思いを十分に把握し外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望に添うよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、訪問に関しては、時間設定等を行っていない。 違和感や威圧感を感じず家族や地域の方々が訪れやすい雰囲気、家族に泊まっていただけることにも配慮している。 地域住民、顔なじみの方々にも行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でネバーモア宣言をし、身体拘束は行なわれていない。 本人の希望がない限り居室の外から鍵をかけない。 全職員が身体拘束の意味を十分理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出て行く気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーが出来るよう日頃から意思疎通を図っている。 夜間、外部からの進入を防ぐ目的で鍵を掛けているが、利用者、家族へ説明している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の行動に気配りしながら、利用者と共に作業し、利用者に注意がいく体制で行なっている。 さりげない動きの中で全体の状況の把握と職員間の連携を図っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常的に薬、刃物、洗剤、漂白剤の管理が安全に行なわれている。日中は利用者も洗剤や包丁が使えるよう台所、洗面台に設置してある。 必要に応じて施錠をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内で発生した「いろんなこと報告書」(事故報告書、ヒヤリハット報告書)を共有する事で再発防止に向けた取り組みがなされている。再発防止への意識付けを行なっている。 ケアプランにリスクを記入し事故防止に努めている。一部に関してはマニュアルを作成している。(服薬、離苑)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習会や研修に定期的に参加し、利用者のケガ、骨折、発作等の急変時の対応、救急救命法など応急手当ができる講習が設定されているが、全職員が受けている状況ではない。常に利用者一人ひとりに対し急変を予測し対応を職員間で話しあっている。	○	AEDの設置の検討。 母体であるよなご特養にて実施される救急救命講習への積極的な参加。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各災害に応じたマニュアルや、関係機関の連絡先を掲示する事で、日々の災害に対する啓発を行なっている。運営推進会議の場で、防災に関しての地域との協力体制を確認している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	小さな変化でも家族に知らせる事で、家族と事業所との共通認識が持てるよう対応している。利用中に起こりうるリスクに対して職員間で検討、把握し、その結果を家族に対して説明し、理解を得るようにしている。リスクに配慮しながらも個々の能力を発揮出来る様支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の日頃の状態把握や状態変化の早期発見に努め、情報の共有、かかりつけ医とも連携を図っている。家族にも報告し、共通認識に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は病院からの処方箋を必ず読み、目的、副作用、用法や用量を確認し医師の指示通り服薬している。医師とも連携を図り、薬の必要性の検討を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬に頼らないように、水分、運動、食事(繊維の多いもの)に気を付け、個々の状態に合わせて配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来ない方は、職員が出来ないところを支援し、清潔保持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1700Kcal、水分1500ccを目安に個々の状態に合わせて、好みの物を提供している。水分量については記録し、かかりつけ医と連携し、体調管理に努めている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを参考に周知徹底している。 うがい、手洗い、除菌の徹底、手袋を使用し保護している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は毎回消毒している。 新鮮な食材を使用している。 炊事の際は冷蔵庫をチェックし賞味期限内に使用している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りをいつも綺麗にし、四季折々の草花を飾り、季節を感じて頂き、訪れやすい雰囲気作りをしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華美にならない様、又高齢者に住みよい色使いと家庭的な雰囲気になるよう配慮している。 食事作りの音、匂い、季節の花等五感に働きかける様に配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士が会話ができる様空間の配慮がされている。利用者個々の状態に合わせた居場所作り、環境作りを心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、地域との密着度を更に高める。 2、外出の頻度を増やす。 3、針仕事を増やす。 4、笑顔を引き出す努力。 5、職員の労働環境の改善。